

イギリス文学史のテキストを めぐる一考察〈下〉 その1

上 村 忠 実

1 研究の目的

イギリス文学とイギリス文学史は、目的と手段の関係にある。イギリス文学を学ぶ学生は旅人で、イギリス文学史は地図であると、ある英文学者は比喩的に表現する。「旅行をする人は、できれば地図の読み方を習っておいたほうがよい。旅の前にも、旅の途中にも、そして旅の後ですら、地図で自分の行動予定を確かめ、足跡を確認するに越したことはない。しかし地図は地図であって、ついに旅行そのものにはならない。これを言いかえれば、英文学の研究では、やはり最後の目的は作品におつかることだ、というにつきる。それは地図を片手に、山に登ったり、川を渡ったり、高原を探索したりする行為に似ているといえよう¹」。この考えに従えば、イギリス文学を旅する(読む)という目的のために、イギリス文学史が地図として果たす役割は大きい。両者は補完的な関係にあるからである。

イギリス文学史の講義では、イギリス文学の変遷(歴史)を扱う以上、各時代を代表する作家名や作品名、文学的技法や年号など、どうしても暗記しなければならない事項が多い。学生にとってみれば、暗記は退屈であり、それを強えられることは苦痛であるかもしれない。しかし苦痛であっても、暗

¹ 川崎寿彦『イギリス文学史』(成美堂, 1988年), i 頁。

記すべきことは暗記しなければならない。英語で書かれた文学である以上、最低限、作家名や作品名は原語の英語で綴ることができるようにならなければならないのである。

これまでイギリス文学およびイギリス文学史を講義してきた経験をふまえて考えてみると、イギリス文学史に関して、学部学生の興味関心を大いに引き出すようなテキストには残念ながらお目にかかったことがない。どのテキストも常に短し襤に長しという感が否めないものである。既存の良いテキストがないならば、自分で作ればよい。それがこの研究の発端である。

「科目担当者と受講者の双方が使いやすく、知識が身に付き、興味が沸くテキストとはどういうものか」²。この問題を探求するために、筆者は道行千枝氏³と共同研究を行なうことにした。本稿は研究の第一段階をまとめたものである。なお、本紀要では、研究の前半部分である「イギリス文学史のテキストをめぐる一考察〈上〉その1」（道行担当）と「イギリス文学史のテキストをめぐる一考察〈下〉その1」（筆者担当）を発表し、研究の後半部分は次号の紀要で発表する予定である。

2 研究の方法

学部学生向けのイギリス文学史のテキストに必要な要件は、道行氏が指摘するとおりである⁴。筆者のこれまでの経験から言えば、初学者に対しては、とにかく枝葉末節を省いて、エッセンスだけに絞り、できるだけ短く簡潔に説明することが肝要である。木を見て森を見ず、となる恐れがあるからである。

前述のとおり、本研究の目的は、「科目担当者と受講者の双方が使いやすい

² 道行千枝「イギリス文学史のテキストをめぐる一考察〈上〉その1」『福岡女学院大学紀要 人文学部編』第27号（2017年）、43頁。

³ 福岡女学院大学准教授

⁴ 道行、44頁。

く、知識が身に付き、興味が沸くテキスト」の探求であるが、この三つの要素の中で最も困難なものは、「興味が沸く」ということであろう。学生の興味関心を引き出すためには、どうすればいいか。

筆者の考える方法は、教室で学んだ場所に実際に連れていく、というものである。学生をイギリス文学の舞台に立たせるのである。実際に渡英して、イギリス文学の風景を見る。それを目標に掲げれば、それがイギリス文学史を学ぶ動機づけになり、それによって興味が沸くのではないかと考えたのである。

筆者は、2005年度から、イギリス文学の風景を見るためのフィールドワークをスタートさせていた。詩、劇、小説というイギリス文学の主要なジャンルから、ワーズワース、シェイクスピア、ブロンテ姉妹という人物を選び、湖水地方、ストラットフォード・アポン・エイヴオン、ハワースという土地を巡る研修旅行である⁵。文学と風景というテーマで、イギリス文学の土地を訪問することは、イギリス文学およびイギリス文学史を理解するうえで大いに役に立つ⁶。ということは、フィールドワークという観点から編集されたテキストが存在してもいいのではないか。フィールドワークのためのイギリス文学史。それが本研究の独自性である。

本研究の基盤となるのは、フィールドワークでその一部を使用している Stephanie Aldred and Judith Godfrey, *Literary Landscapes: An Introduction to English Literature* (Manchester: Lexis Publishing, 1991) である。この本は、“the advanced EFL student and the pre-GCSE pupil”⁷に向けられたテキ

⁵ 上村忠実『『フィールドワーク表現C』実践報告』『福岡女学院大学教育フォーラム』第11号(2009年)、「イギリス文学の風景—海外フィールドワーカー—」『福岡女学院大学教育フォーラム』第18号(2016年)、「イギリス文学紀行—シェイクスピア、ワーズワース、ブロンテ姉妹を中心に—」『福岡女学院大学教育フォーラム』第19号(2017年)参照。

⁶ Peter Milward, *English Poets and Places* (Kinseido, 1980) (邦題『英国詩のふるさと』)参照。筆者が「イギリス文学と土地」というテーマでフィールドワークを構想したのは、この本を読んでヒントを得たことによる。

⁷ Aldred and Judith Godfrey, *Literary Landscapes: An Introduction to English Literature* (Manchester: Lexis Publishing, 1991), 裏表紙。

ストで、全部で9章、全50頁である。各章の構成については道行氏が述べているので⁸、ここでは全9章の章題を記す。第1章：文学誕生以前，第2章：オックスフォードとケンブリッジ出身者，第3章：ストラットフォードの男，第4章：ロンドンの生活，第5章：都市と田園，第6章：ロマン派の湖水地方，第7章：ヨークシャーの家族，第8章：産業の光景，第9章：変わりゆく風景。本研究では，第1章から第4章までを道行氏が担当し，第5章から第9章までを筆者が担当する。

本稿では，まず *Literary Landscapes* の第5章から第9章までを試訳する。それはテキストを作る際に，必要に応じて削除したり，書き直したりしたいからである。なお，本稿では，紙幅の都合上，著者（Stephanie Aldred and Judith Godfrey）の原文のみ，試訳する。著者が引用しているイギリス文学の原文の試訳は，次号の紀要に掲載する予定である（本稿では，「引用省略」と記し，そのあとに出典を著者の英語表記のまま記す）。次に，イギリス文学史のテキストとして不足している項目は何かを明らかにする。それはテキストを作る際に，不足している項目を加筆したいからである。

3 試訳

文学の風景 —イギリス文学入門—

第5章 都市と田園

イントロダクション

イギリスでは，18世紀は全体的に見て，安定と繁栄の時代であった。この

⁸ 道行，44頁。

間、産業は著しく発展し、国富は急速に増加した。新聞が発刊された。議会政治も発展していた。1714年から1727年まで君臨した国王ジョージ1世は、ドイツ語しか話さず、イングランドにとどまって統治することはほとんどなかった。君主不在のため、言論の自由が増大し、政治家は新聞を通して各自の思想を広めた。

社会はこれまでになく自由で啓発された雰囲気であった。ロックやヒュームのような大きな影響を及ぼす哲学者たちの思想が、「理性の時代」と呼ばれるこの新しい時代に大いに貢献したのである。作家は、王族よりも、野心のある政治家に雇用された。初めて完全にプロの作家になることができたのである。アレクサンダー・ポープは自分の著作だけで生計を立てた最初の人であった。

珠玉の表現

エレガンスの時代

(引用省略) John Locke *An Essay Concerning Human Understanding*
(1690)

Alexander Pope *An Essay on Criticism* (1711)

Joseph Addison advertising his newspaper *The Spectator*
(1711)

分析

1. ロックは新しい思想があまり受け入れられなかった理由をどのように述べているか。
2. どのような意味で、少しばかりの学識は危険なのか。
3. ポープによれば、すぐれた名言はどのようにして精密に作られるのか。
4. アディソンは、哲学はどこで議論されるべきだと考えているか。

サミュエル・ジョンソン

英語の最初の辞書はサミュエル・ジョンソンによって編纂された。彼は偉大な作家、思想家、批評家で、特に会話の中で機知に富んだ発言をすることで有名であった。辞書の編纂は膨大な作業であったが、彼は全部一人で行なった。それはのちに大勢の辞書学者たちがチームを組んで編纂した『オックスフォード英語辞典』の先駆けとなったことを考えると、信じられない偉業であった。彼は文学のあらゆる分野から、それを支持する114,000以上の例を引いて43,000語を定義した。彼はこれを9年でやり遂げた。

彼の友人であり、伝記作家であるボズウェルは、ジョンソンが次のように述べたと報告している。「私は自分がとてもよくできると自信のあることが二つある。一つはいかなる文学作品であれ、それに対する前書きである。私はその作品には何が含まれるべきか、そしてそれがどのように完璧に仕上げられるべきかを述べることができる。もう一つは後書きである。私はなぜ結末が、著者や世間がこうなるであろうと思ったようにはならなかったのか、さまざまな原因を示すことができる」。彼は自分の辞書について、次のように述べた。「それは私の期待を満足させるようなものではない」。

いくつかの定義は風変わりである。例えば、「辞書学者」の定義は、「辞書を編纂する人、つまらない仕事をおしつけられた害のない人」である。間違っている定義もある。例えば、「風上」と「風下」は意味が反対であるが、同じになっている。あるものに対する彼の態度が表明されている定義もある。「パトロン：横柄な態度で援助して、見返りにお世辞を受ける人」。さらに意図的にこっけいな定義もある。「オート麦：イングランドでは馬が食べ、スコットランドでは人間が食べる穀物」。かつてある婦人が彼に尋ねた。どのようにして馬の「ひづめとくるぶしの間」を「ひざ」と定義したのか、と。彼は答えた。「知りませんでした、奥様。まったく知りませんでした」。

伝記

サミュエル・ジョンソン (1709-1784年)

リッチフィールド生まれ。書店の息子。目の病気があったにもかかわらず、若いころから熱心な読書家であった。1728年、オックスフォード大学に入学するが、おそらく経済的な理由で卒業しない。1731年、父が死去。この時から、ジョンソンはストレスと鬱病に苦しむ。1735年、エリザベス・ポーターと結婚。リッチフィールドの近くで私立学校を開校するが、不成功に終わる。1737年、ギャリック (俳優) とロンドンへ行く。『ザ・ジェントルマンズ・マガジン』に雇用され、論説やエッセイを執筆。『ロンドン』を出版。下働きのジャーナリズムの仕事と経済的困窮のために鬱病になる。夜、友人と通りを徘徊する。1747年、『英語辞典』の構想を発表。1749年、『人の望みのむなしさ』を出版。これは彼の名前が記された最初の作品である。1750年、『英語辞典』の作業を継続するかたわら、『散策する人』を創刊。1752年、妻が死去。鬱の状態と悲しみが長く続く。1755年、『英語辞典』を出版。1758-60年、『怠け者』に寄稿。1759年、『ラセラス』に寄稿。1762年、300ポンドのクラウン年金を受領し、下働きの仕事を減らすことができるようになる。友人の書店でボズウェルに会う。1765年、著名な政治家のタウンハウスとカントリーハウスに滞在し始める。有名な序文をつけた『シェイクスピア全集』を出版。1773年、ボズウェルとスコットランド旅行。1775年、『スコットランド西方諸島の旅』を出版。1779-1781年、『イギリス詩人伝』を出版。1784年、死去。ウエストミンスター寺院に埋葬される。

分析

正しいか、誤りか？

1. ジョンソンは子供のころ、本を読むのが嫌いであった。
2. ジョンソンは大学には行かなかった。
3. ジョンソンはいつも裕福であった。
4. ジョンソンは自分の学校を始めた。

5. ジョンソンの主要な職業はジャーナリストであった。
6. ジョンソンの著作の多くは自伝である。
7. ジョンソンは決してロンドンを離れなかった。
8. ジョンソンは辞書学者であった。
9. ボズウェルは有名な自伝を書いた。
10. ジョンソンは生涯を通じて憂鬱の傾向があった。

ジェーン・オースティン

ジェーン・オースティン（1775-1817年）は18世紀の本質的な特徴を具現化していて、間違いなく、イギリスのもっとも偉大な小説家の一人である。彼女はとても若いころから書き始め、まだ二十代のはじめのころ、『高慢と偏見』を完成させた。彼女の小説のヒロインは、結婚相手を探している若い女性である。登場人物の一人が遠慮なく言うように、「結婚とは、教養はあるが財産は少ない若い女性に与えられる唯一のすばらしいものである」。理想的な夫は、愛、地位、富、大邸宅を与えるからである。オースティンの作品には、明白な性的情熱の描写は見られないが、性的緊張の描写はよく見られる。それは、限定されてはいるが、詳細に観察された社交界の中で交わされる控えめな対話を通して描かれている。

彼女の小説は、紳士階級に属する田舎の家を舞台にしている。登場人物は、時々ロンドンへ行ったり、その「時期」に温泉地へ行ったりする以外、この舞台設定から離れることはめったにない。イギリスのカントリーハウスは、イギリスらしさ、特に18世紀らしさを醸し出す典型的なものである。今日では、多くのカントリーハウスが一般公開されている。それはジェーン・オースティンの世界を今もなお強く感じさせる。彼女は食堂のテーブルや舞踏室や客間で繰り広げられた当意即妙のやり取りをととても正確に観察したのである。

次の文章では、バートン・パークがミドルトン家の舞台として設定されている。オースティンは、夫妻に限られた範囲のことしかしないことをからかつ

ている。

(引用省略) From *Sense and Sensibility* Chapter 7

この文章では、オースティンは、エリザベス・ベネットが聖職者のコリンズ氏の家を訪問したときの様子を描いている。氏はエリザベスが結婚を断った相手である。コリンズ氏と妻のシャーロットがベネット家の人々に広大な土地を見せるとき、エリザベスは皮肉なことに、鼻持ちならないコリンズ氏との結婚を断ったことによって、自分が何を捨てたのかに気づかされるのである。

(引用省略) From *Pride and Prejudice* Chapter 28

分析

1. ミドルトン夫妻が気前のよい上品なパーティを開いたことを示唆する表現を本文から抜き出さない。
2. 親切なもてなしは、なぜジョン卿を喜ばせたのか。上品さは、なぜ彼の妻にとって重要であったのか。説明しなさい。
3. ミドルトン夫妻には、ほとんどいつもだれか仲間がいたと述べている表現を本文から抜き出さない。
4. ミドルトン夫妻は、友人と一緒に滞在していないときは楽しむことができなかった。ジェーン・オースティンはその理由をどのように説明しているか。
5. ジョン卿と彼の妻の主要な関心事は何であったか。
6. ジョン卿は好きな活動をすることを、彼の妻よりも制限されていた。どのように制限されていたか。
7. ミドルトン卿夫人が良い母親であったことを、オースティンはどの程度示唆しているか。
8. ミドルトン夫妻の良い点と悪い点は何か。
9. 太字体の語を普通字体の類義語と一致させなさい。

clump ほめ言葉 abode ゆっくり歩くこと discernible 見える ostentatious 庭園の小路 walks and cross-walks 人目を引く refreshment 聖職者の家 praises ただちに utter 飲食物 punctually 話す stroll グループ

10. コリンズ氏はどのようにしてカントリーハウスの魅力を壊すことに成功するのか。

愛の田園詩

(引用省略) *Alexander Pope* 1709

ディスカッションのポイント

女性は、庭園に面することで、どのような効果があるか。

第6章

ロマン派の湖水地方

イントロダクション

湖水地方はイングランドの北西、ロンドンから約300マイル、スコットランドとの境界線の南にある。天候は湿気が多く、霧も出て、嵐になることも多い。湖や丘のある山地の風景は、散策する人や芸術家にとっても人気がある。今日、その地域は国立公園に指定され、自然の景観を損なうものが建築されないように法律によって特別に保護されている。18世紀から、湖水地方は詩人たちのちょっとした巡礼地であった。詩人ウィリアム・ワーズワース(1770-1850年)の家ダブコテージは、今日、博物館として運営され、世界中から観光客が訪れている。タブコテージには小さな部屋がわずかしかないが、その中にはワーズワースが数多くの詩を書いた書斎がある。かわいらしい庭があり、ワーズワースが好んでいたと考えられている花が今もなお植え

られている。

ワーズワースは多作な「自然を歌った詩人」であり、特に次の詩行が有名である。

(引用省略)⁹

ワーズワースは、文学においても、政治においても、革命家としてスタートを切ったが、結局は課税査定官、桂冠詩人となった。最終的には引退してライダル湖畔の大邸宅に移り住んだ。サミュエル・テイラー・コールリッジは、今、ロマン派の文人の中でもっとも才能にあふれていたと考えられている。コールリッジの著作は、文学批評、心理学、教育、宗教にわたっている。彼は同じグループのもう一人の作家、ド・クインシーと同様に、生涯にわたってアヘンを常用した。

19世紀になる頃、ワーズワース、コールリッジ、ド・クインシー、サウジー(1813年より桂冠詩人)は、定期的にダブコテージで会っていた。この文人たちは、意見交換をしながら、詩想を得るために近隣の田園に何回も小旅行をしながら、型にはまらない自意識の強い芸術家たちを先導した。以下の文章は、彼らの日記からの引用である。

ディスカッションのポイント

美しい風景は、なぜ作家たちに靈感を与えるのか。

都市環境も同じように靈感を与えるか。

珠玉の表現

タブコテージの生活

(引用省略) De Quincey's *Journal* 1807

Dorothy Wordsworth's *Journal* April 1802

Coleridge's *Journal* 1800

⁹ 出典は記されていない。William Wordsworthの“The Daffodils”として知られている詩の第1連。

Dorothy Wordsworth's *Journal* May 1802

分析

1. ド・クインシーはドロシーの台所の何に驚いたのか。
2. 1802年の春, ドロシーは水仙のことを日記に書いているが, それの何が重要なのか。
3. コールリッジは小旅行のことを日記に書いているが, 特に何が彼の心を打ったのか。
4. ロマン派詩人たちは本当に貧しかったのか。

ノートを取ること

1. 上記の文章の中から一つ選びなさい。知らない単語の意味を辞書で調べ, 語彙集を作り, それを他の学生と交換しなさい。
2. すべての文章に目を通して, 次のものに言及している言葉をすべて抜き出しなさい。
 - a) 水
 - b) 植物戸外の風景を描写していない文章はどれか¹⁰。

19世紀の薬物常用者

以下の文章は, 風変わりなロマン派の哲学者トマス・ド・クインシー (1785-1859年) の『イギリスのアヘン常用者の告白』(1821年) からの引用である。彼は覚醒時と睡眠時におけるアヘンの主要な効用を四つ述べている。

(引用省略) *Confessions of an English Opium-Eater* (1821)

¹⁰ この問いの前には, 「3.」という番号がつけられるべきである。

語彙

call up - 呼び起こす, trace - 設計する, gloomy - 悲しい, 暗い, chasms - 深い洞窟, abysses - 地の底, despondency - 憂鬱, 絶望, swelled - だんだん大きくなった, minutest - 最も小さい, critical assistance - 緊急援助

分析

- a) ド・クインシーの正気な思考は、アヘンを吸引したあと、どのように彼の夢に影響を及ぼしたのか、上記の冒頭の段落をもとに説明しなさい。
- b) 第2段落に目を通して、アヘンを吸引している際のド・クインシーの大きな心理状態を要約しなさい。
- c) その薬物は、時間と空間の認識にどのように恐ろしい影響を及ぼすのか、第3段落をもとに答えなさい。
- d) 第4段落では、ド・クインシーはフロイトの無意識の概念を先取りしている。「忘却のようなものはない」とは、どのような意味か。

伝記

サミュエル・テイラー・コールリッジ

1772年、デヴォン州生まれ。ロンドンの学校で学ぶ。ケンブリッジ大学に入学。専攻は古典。フランス革命によって学問に対する気がそがれる。才能のある学究であったが、深酒と不幸な恋愛関係によって、最終的に彼のすばらしい経歴に傷がついた。1794年、軍に入隊。コールリッジの精神錯乱を兄が申し立て、除隊となる。オックスフォードでサウジーと会う。彼らは貧困をすべて分かちあう共同体「パンティソクラシー」を作ることを決心する。サウジーと共に詩劇『ロベスピエールの失脚』を執筆。サウジーとコールリッジは、メアリーとサラ・フリッカーと結婚¹¹。1796年、サマセット州に移る。

¹¹ メアリーはエディスの誤り。サウジーが結婚したのは、エディス・フリッカーである。

急進的なキリスト教の雑誌を編集し、聖職者に近い働きをする。病気と憂鬱を克服するためにアヘンの吸引を始める。1797年、友人のドロシーとウィリアム・ワーズワースは、コールリッジのそばにいるためにサマセット州に移る。1798年、コールリッジとワーズワースは『抒情歌謡集』を出版。それは詩集で、その序文はロマン派詩の宣言となっている。コールリッジは、ウエッジウッド一族（陶磁器メーカー）より、生活費として年に150ポンドを受け取る。「クブラカーン」、「クリスタベル」、「老水夫の歌」を執筆。1800年、ワーズワース一家について湖水地方に移る。サウジーもそこに移る。「湖畔詩人」として知られる仲間が形成される。結婚は失敗に終わる。サラ・ハッチンソンと恋に落ちる。サラはのちにワーズワースの妻となるメアリーの妹である。夢と瞑想について説いた『備忘録』を編集。1804年、妻と別れる。1807年、ド・クインシーと会う。1809年、サラ・ハッチンソンと関係を持つ。政治的、批評的論評『友人』を執筆・編集。1810年、ワーズワースおよびサラ・ハッチンソンと絶交。ウエッジウッドの経済的支援が減少。1811-1816年、アヘン中毒を克服するために主にロンドンに住む。1817年、哲学、自伝、批評を綴った『文学的自叙伝』を出版。ジョージ4世が王立文学協会を設立し、コールリッジは年金100ポンドを手にする。1834年、死去。

分析

1. コールリッジは、なぜ学位を取得せずにケンブリッジを去ったのか。
2. コールリッジの兄は、コールリッジを軍から除隊させるためにどのような言い訳をしたのか。
3. パンティソクラシーとは何であったか。
4. コールリッジが最初にアヘンを吸引したのはなぜか。
5. コールリッジの人生に大きな影響を与えたのはどのような友人関係か。
6. 『抒情歌謡集』の主要な意義は何であったか。
7. 著名な実業家ジョサイアとトマス・ウエッジウッドは、コールリッジの生涯にどのように貢献したのか。

8. コールリッジの人生において、2番目のサラはワーズワースの義理の妹であった。最初のサラは誰であったか。
9. コールリッジは生存中、どのような種類の本を出版したのか。
10. コールリッジの最後の恩人は誰であったか。

老水夫の歌 (1798年)

老水夫は幸運の象徴であるアホウドリを射た。その鳥は船について来ていた。

(引用省略) *The Rhyme of the Ancient Mariner* (1798)

この恐ろしい静けさは、水夫に責任がある。彼はアホウドリを射たがゆえに悪運を招いたのである。

(引用省略) *The Rhyme of the Ancient Mariner* (1798)

それから一艘の船が見えた。それは女の幽霊とその仲間である死神が乗り込んでいる幽霊船であることがわかった。これらの恐ろしい骨格状のものは、乗組員をかけてサイコロを振った。幽霊は水夫に勝った。残りの乗組員は次々に死に始めた。

(引用省略) *The Rhyme of the Ancient Mariner* (1798)

水夫が海のある生き物を無意識に祝福したちょうどそのとき、呪いがとけた。それから死んだ部下たちは、舵を取って船を港に入れた。港では、乗組員の霊が天に昇った。老水夫は呪われて、彼の話語りながら国から国へと旅をする。

(引用省略) *The Rhyme of the Ancient Mariner* (1798)

ディスカッションのポイント

「老水夫の歌」には、コールリッジの薬物関連の経験がどの程度反映されているか。

第7章

ヨークシャーの家族

イントロダクション

ヨークシャーはイングランドでもっとも大きな州である。そしていろいろな意味でもっとも幅がある。ヨークシャーはイングランドの北東部にある。天候は寒く、風が強い。特に荒野に住む人々は、嵐の多い長く厳しい冬に慣れている。急な坂道の本通りがあるハワースと呼ばれる荒野の村には、いつも訪問客がいる。なぜなら、そこは有名なブロンテ姉妹の故郷だからである。シャーロット、エミリー、アン・ブロンテの作品は、19世紀ロマン主義の典型である。彼女らの小説や詩は、見まごうことなき風景の中で示された、あらゆる種類の情熱、苦痛、悲劇を扱っている。この荒涼とした荒野はまた、ブロンテ一家が実人生で多くの悲劇を体験した場所でもあった。

珠玉の表現

ハワースの生活

(引用省略) E Gaskell *Life of Charlotte Bronte*

C B *Letters*

E Gaskell *Life of Charlotte Bronte*

E Gaskell *Life of Charlotte Bronte*

E Gaskell *Life of Charlotte Bronte*

E Bronte's diary, 24th November, 1834

ディスカッションのポイント

1. どのような意味で、牧師館は健康に悪い環境に置かれていたのか。
2. ハワースの村人たちは、どのような人々であったか。
3. ブロンテ姉妹の幼少期の家庭生活はどのようなものであったか。

ブロンテ姉妹の子供時代には悲しみがつきまとった。家族でハワースにやってきた翌年、母親が死去し、すぐそのあとに二人の姉も死去した。姉妹は家事のほとんどをしなければならなかった。父親は厳格で思いやりがなく、彼女たちが執筆することを奨励しなかった。牧師館は小さく、娯楽は限られていたので、子供たちは、現実逃避に走った。おもちゃが住むという空想の世界をつくり出したのである。

姉妹はとても若いころ、文と絵を書き／描き始め、死ぬまでそれを続けた。ブロンテ姉妹と兄弟のブラウンウェルは、大人になってもなお、ハワースと批判的な父の影から逃れることができなかった。

ロマンチックなヒーロー

以下の文章は、シャーロットの『ジェーン・エア』からの引用で、ロチェスター氏のことが描かれている。氏はジェーン・エアの雇用主で、最終的に彼女が結婚する人である。彼女は（シャーロット・ブロンテ自身のように）小柄で美しいけれど、熱意と精神的強さにあふれた女性家庭教師である。シャーロットは女性家庭教師として、何度か職に就いたことはあったが、それを嫌っていた。彼女は実人生では、決してロチェスター氏と出会うことはなかった。

(引用省略) *Jane Eyre*

以下の抜粋は、エミリーの小説『嵐が丘』からの引用である。ヒースクリフが初めて村に戻ってきたときの様子が描かれている。ヒースクリフは、シャーロットのロチェスター氏と同様に、幻想的な人物である。

(引用省略) *Wuthering Heights*

以下の抜粋は、アンの『ワイルドフェルホールの住人』からの引用である。ハンティンドン氏がアルコール中毒になって、激怒したときの様子が描かれている。アーサー・ハンティンドンの性格は、救いようのない兄ブラウンウェ

ルのそれに基づいていると考えられている。

(引用省略) *The Tenant of Wildfell Hall*

語彙

mingled - 混ざった, at length - 最終的に, on pain of - 怖れを抱いて, under her thumb - 彼女の完全な支配下にいる, The Lord Harry - 悪魔, seized - 持ち上げる, countenance - 外見とふるまい, jetty - (黒玉のように) 黒い, cholera - 怒り, 怒りっぽさ¹²

ノートを取ること

1. ロチェスター氏とヒースクリフの肉体的な特徴を書きなさい。
2. ハンティンドンのアルコール依存を制限するために、彼の妻が試みた三つの方法を書きなさい。

伝記

ブロンテ一家

1820年、パトリック・ブロンテ牧師は、妻と六人の子供たち、すなわち、マリア（1813年生まれ）、エリザベス（1814年生まれ）、シャーロット（1816年生まれ）、ブラウンウェル（1817年生まれ）、エミリー（1818年生まれ）、アン（1820年生まれ）とともにハワースに引っ越す。1821年、（子供たちの）母、癌のため死去。1824年、年長の女子4人は、カウアン・ブリッジに入学させられる。そこは怠慢な寄宿学校であった。のちにシャーロットは『ジェーン・エア』でそれを描いている。1825年、4人は学校を退学。マリアとエリザベス、結核で死去。1826年、ブラウンウェルはおもちゃの兵隊をもらう。その兵隊の人形が子供たち全員の想像力をかきたてる。子供たちは、架空の国にもとづいた「アングリシア」物語を書き始める。1831年、シャーロットは

¹² 「怒りっぽさ」と訳した原語の *irascibility* は *irascibility* のスペルミス。

学校に戻る。エミリーとアンはゴンドルを創作。そこに描かれている風景には、自分たちが育ったヨークシャーの荒野が反映されている。シャーロットは女性家庭教師や学校教師になる。シャーロットはブリュッセルのエジェ教授に恋をする¹³。その時の経験は、彼女の最後の小説『ヴェレット』で使用されている。1845年、ブラウンウェルは家庭教師の職を解雇される。雇用主の妻と関係を持ったからである。彼はハウースのブラック・ブルで深酒をするようになる。エミリーはゴンドル詩編の出版を決意する。1846年、カラー、エリス、アクトン・ベルの詩集を出版。(姉妹は「無名の牧師の娘たち」という嘲笑を避けるために男性のペンネームを使用)。売れたのは2冊だけであった。1847年、シャーロットは『ジェーン・エア』を出版。1848年、エミリーは『嵐が丘』、アンは『ワイルドフェルホールの住人』を出版。ブラウンウェル、死去。エミリーは彼の葬式で風邪をひき、それがもとになって、同年、結核で死去。1849年、シャーロットは『シャーリー』を出版。アン、結核で死去。1850年、シャーロットはエリザベス・ギヤスケルに会う。ギヤスケルはシャーロットの友人になり、最終的に彼女の伝記を書くことになる。1853年、『ヴェレット』出版。1854年、シャーロットは嫌々ながら父の助手アーサー・ニコルズと結婚。1855年、シャーロット、妊娠していたが、結核にかかり、死去。

分析

1. 1820年、ブロンテ家の何人がハウースの牧師館に引っ越したか。そのうち、女性は何人であったか。
2. その後、1年もたたないうちに、パトリックの妻に何が起こったか。
3. カウアン・ブリッジはどのような学校であったか。
4. ブラウンウェル・ブロンテの木製の兵隊は、なぜ重要であったか。
5. ゴンドルとは誰／何であったか。

¹³ 原文では、M Heger と書かれているが、エジェは Constantin Heger なので、M Heger ではなく、C Heger の誤り。

6. シャーロットの『ヴィレット』における小さな教授のモデルは誰であったか。
7. ブラウンウェルは、なぜ子供たちの家庭教師の仕事を辞める必要があったのか。
8. 姉妹が最初の本を出版するとき、自分たちの正体を隠したのはなぜか。
9. ブラウンウェルとエミリーが死去したのは何年であったか。
10. 1854年、シャーロットは誰と結婚するように説得させられたか。

荒野の家

エミリー・ブロンテの『嵐が丘』の舞台は、荒野に立つ2軒の家である。次の文章は、「嵐が丘」そのものの描写である。これから借りようとしているロックウッド氏が初めて見せてもらったとき、彼の目に映った様子である。その建物は、もともとはハワースから遠くないところにある農場の主人の家であった。今日、その廃墟を見ることができる。

(引用省略) *Wuthering Heights*

分析

1. 次の語の類義語を見つけなさい (必要ならば、辞書を引きなさい)。大騒ぎ、傾く、施しもの、突き出た、惜しみなく与えた、グリフィン、不機嫌な、悪化させる
2. モミといばらは、どのような種類の有機体か。
3. 第3段落では、家の内部の様子が描かれている。辞書を使わずに、文脈から次の語の意味を推測しない。缶 (煙突の出っ張りに沿った装飾)、雌のポインター (キャンキャン鳴く子犬に囲まれた)
4. 家の外側には、装飾として、グリフィンと恥ずかしさを知らない小さな少年の彫刻が施されている。エミリー・ブロンテは、これによってどのような意味を持たせようとしているのか。
5. 家には、銃、拳銃、犬、昔ながらの椅子がある。その家の主人の生活様

式について、何が推測できるか。

6. ロックウッドは、なぜその家の歴史について尋ねる気がしないのか。

ヴィクトリア時代の教育

以下の文章は、シャーロット・ブロンテの『ジェーン・エア』からの引用である。彼女は自身のカウアン・ブリッジでの体験をもとに、ローウッドスクールでの生活を描いている。

(引用省略) *Jane Eyre*

分析

1. ローウッドスクールの生徒たちは、なぜ冬になると特に不快になったのか。
2. しもやけの不快な状態の原因は何か。
3. 少女たちは、なぜいつも空腹であったのか。
4. 日曜日の生活は、なぜ特につらかったのか。
5. ローウッドの冬の天候について述べなさい。
6. 食べ物はどうのようなものであったか。
7. 年長の少女は、いつも年少の少女の世話をしたのか。
8. 次の語を説明しなさい。通れない道路、二人の要求する人、ほんのわずかなもの
9. 学校の職員は、なぜ冬のさなかであっても、生徒たちが1時間、外の空気を吸って過ごすのは良いことであると思っていたのか。
10. 少女たちは、なぜどんな天気であっても教会まで歩かされたのか。

哀歌

エミリー・ブロンテによって書かれたこの感動的な詩は、12歳で亡くなった姉マリアへの哀歌であろう。

(引用省略)¹⁴

¹⁴ 出典は記されていない。Cold in the earth から始まる2連8行。

第8章 産業の光景

イントロダクション

イギリスは世界中でもっとも早く産業化した国であった。イギリスでもっとも早く産業化した中心地は、ロンドンの北西200マイルに位置しているマンチェスターであった。マンチェスターの人口は、1801年から1851年の間に、84,000人から367,000人に増加した。都会はとても急速に拡大した。それは人々が一年を通して正式に雇用されることを求めて、田舎から都会へ移り住んだからである。それと同時に、とても多くの共有地（だれでもそこで動物を飼うことが許されていた）が「囲い込まれ」、政府にとりあげられた。その結果、男も女もそそのかされ、町が提供する新しい生活を余儀なくさせられたのである。

政府の政策に従った多くの人にとって、工場での労働は生ける地獄であった。労働時間は極めて長く、労働環境は最悪であった。つねに騒音と埃があった。労働者の中には、決して日の光を見ない者もいた。畑で働くことに慣れてきた人々は、今や1日18時間、機械とともに閉じ込められて過ごすことに慣れなければならなかった。

珠玉の表現

暗い悪魔の工場

工場労働者たちは、産業都市の中心部に住んでいた。一家族が裏部屋の一室や地下室に住むことは、ごくあたりまえのことであった。そこは暗く、湿っていて、当然のことながら危険なまでに健康に良くない状態であった。以下の文章は、フリードリヒ・エンゲルスがマンチェスターの中心部にある地域を描いたものである。エンゲルスは、カール・マルクスと働き、彼にマンチェスターの労働者階級の人々を紹介した。エンゲルスの父は、マンチェスターに工場を持っていたのである。彼はアーク川の土手に立つ、ある「団地」一

安アパートのような大きな建物—の様子を描いている。

(引用省略) Friedrich Engels

From *Hard Times* by Charles Dickens 1854

From *Hard Times* by Charles Dickens 1854

From *Mary Barton* by Elizabeth Gaskell 1848

語彙

ragged - 古い布切れ, dusky - ほの暗い, 薄暗い, foetid - 不潔な, 腐った, inured - 強固にした, oozed - ゆっくり通り過ぎた

(引用省略) From Queen Victoria's *Diary*, 1852, when she visited Manchester

ノートを取ること

上記の引用の中から一つ選び, 知らない単語の意味を辞書で調べなさい。文章に対する語彙集を作り, それを他の学生と交換しなさい。

分析

1. マンチェスターの労働者階級の人々は, どのような場所に住まなければならなかったか。
2. 労働者たちの住居は, なぜとてもひどい臭いがしたのか。
3. 彼らの住居は, なぜ湿っていて暗かったのか。
4. 次の語を用いながら, 典型的な19世紀の工場労働者の家を描写しなさい。
とても小さい, 適していない, 明かりが灯っていない, 暖房が効いていない, すし詰め状態の, 健康に良くない

ディスカッションのポイント

19世紀のイギリスは繁栄していたのに, なぜ労働者たちは貧困の中で生きたのか。

珠玉の表現

社会派の小説家

この時代の大きな不平等は、マルクス、エンゲルス、カーライル、ラスキンのような改革派の哲学者たちだけでなく、この時代の小説家によっても書きとめられた。この時代でもっとも人気のある多作の作家は、チャールズ・ディケンズであった。彼はジャーナリストとして書く仕事を始めた。彼の小説は、定期刊行物の中での連載という形で出版された。それは広い範囲の熱狂的な大衆の心をつかんだ。大衆は連載の次の1回分を心待ちにしていた。それはちょうど今日、テレビの視聴者が「連続ドラマ」の次のエピソードを楽しみに待つと同じである。小説の連載は一定の山場を生み出した。ディケンズは熱狂的な大衆のために、小説の抜粋を劇のように朗読してみせた。

ディケンズ自身の人生は、ドラマなしではなかった。9歳のとき、牧歌的な子供時代は中断した。父親が借金のために投獄されたのである。『リトル・ドリッド』では、よく似た監獄が鮮明に描写されている。空想にふけるチャールズは、入学前にすでに読むことができたが、靴磨き工場に働きに行かなければならなかった。『デイヴィッド・コパフィールド』には、そのことが引き起こしたみじめさが描かれている。また、優しく、ひどく貧乏だが楽天的なミコーバー氏の中に、彼の父の似姿が詳細に描かれている。氏のために、いつも何かが「現れる」のである。

1837年、『ピックウィック・ペーパーズ』の成功によって、ディケンズはキャサリン・ホガースと結婚するための経済的な安定を図ることができた。国民を感動させた『骨董屋』のような小説の中で、死の床の場面を描かせたのは、妻の若い妹メアリーの死であった。1842年、ディケンズはアメリカを訪問した。アメリカ市民は、『マーティン・チャズルウィット』で描かれているような辛辣な決まり文句を喜ばなかった。

ディケンズは生涯を通して、ヴィクトリア女王やドストエフスキーを別格として、称賛者たちによって高く評価された。彼は58歳のとき、脳卒中で突然死去した。小説『エドウィン・ドルードの謎』に取り組んでいる最中のこ

とであった。

ディスカッションのポイント

- a) カール・マルクスとチャールズ・ディケンズでは、どちらが感銘を与える社会派の作家であったか。
- b) イギリスは繁栄していたのに、なぜ労働者たちは貧困の中で生きたのか。

チャールズ・ディケンズ (1812-1870年)

- 1836年 ボズのスケッチ, ピックウィック・ペーパーズ
- 1837年 ニコラス・ニクルビー
- 1840年 骨董屋, バーナビー・ラッジ
- 1843年 クリスマス・キャロル
- 1844年 マーティン・チャズルウィット
- 1848年 ドンビーと息子
- 1850年 デイヴィッド・コバフィールド
- 1853年 荒涼館
- 1854年 ハード・タイムズ
- 1857年 リトル・ドリッド
- 1859年 二都物語
- 1860年 大いなる遺産
- 1864年 我らの共通の友
- 1870年 エドウィン・ドルードの謎 (未完)

有名な登場人物

何人かの登場人物は、ディケンズよりも偉大で、伝説的な存在になった。
例えば、

グラドグラインド氏 (『ハード・タイムズ』)。思いやりのない工場の所有者。「さあ、私が欲しいのは事実。事実だけが人生の中で求められるのだ」。

狡猾なドジャー（『オリヴァー・ツイスト』）。フェイギンの窃盗団の中でもっともスリがうまい少年。

ワックフォード・スクィアズ（『ニコラス・ニクルビー』）。悪徳教師。「みなさん、食欲をおさえなさい。そうすれば人間の本性を克服したのです」。

ユライア・ヒープ（『デイヴィッド・コパフィールド』）。不誠実に媚びる書記。「私たちは本当にとても謙遜です」。

スクルージ（『クリスマス・キャロル』）。悪名高く、クリスマスを「詐欺」と呼び、貧しい人々への施しを断る。それから、霊を見る。

ピックウィック氏（『ピックウィック・ペーパーズ』）。素人のジャーナリスト・クラブの議長。「人間の本質を観察しているのです」。

マダム・ドファルジュ（『二都物語』）。編み物を片手に処刑を見ながら、ギロチンの前に座った。

ノートを取ること

以下の記述のどれが上記リストの人物にあてはまるか。

- a) 非行少年
- b) 無慈悲な年老いた守銭奴
- c) フランス革命で、人々が打ち首にされるのを見ているときも冷静な老女
- d) 実利を重んじる工場所有者
- e) 野蛮な教師
- f) 作家仲間の長で自称哲学者
- g) 偽りの謙遜な態度でふるまう従業員

珠玉の表現

新しい地平

（引用省略）From *North and South* by Elizabeth Gaskell 1854

From *Hard Times* by Charles Dickens 1854

分析

1. 左側の語に相当する語を右側から見つけなさい。

dye	工場
mill	長方形の
streets	蛇
canal	原始人
apprentice	香水
oblong	終わりのない
serpents	家の並んだ道
fragrance	人口の水路
interminable	若い低賃金の労働者
savage	着色作用物質

2. 両方の作家とも、色をどのように用いて描写しているか。
3. 両方の作家とも、建物にレンガが使用されていることに心を打たれたのはなぜか。
4. ギヤスケル夫人は、なぜ通りには希望がないように見えると思ったのか。
5. デイケンズは、なぜ町の顔には野蛮人のように色が塗られていると述べているのか。
6. 小説家は工場のある町の現実をどの程度反映させているのか。小説家の描写を上記のエンゲルスのそれと比較しなさい。

ディスカッションのポイント

19世紀の労働者たちが、田舎から都会へ移転するメリットとデメリットは何であったか。

社会派の詩

19世紀のイギリスでは、工場、農場、運河、炭鉱において、児童労働はとても重要であった。繰り返しの多い熟練を必要としない仕事がたくさんある

ところでは、どこでも重要であった。子供の奉公人は、親から買うことができた。あるいは、救貧院（貧困者たちが自分たちの食い扶持のためにだけ働いた施設）から連れてくることができた。19世紀の半ば、ロバート・ピールは議会を通して、子供が働くことができる時間は一日12時間までに制限するという法律を制定した。子供たちは機械の番をするために織物産業で使われた。それは小さな体が機械の下に入り込むのに簡単に適合したからである。それは奉公人たちの中で、恐ろしい怪我や死亡事故を引き起こした。

（引用省略）The Chimney Sweeper

From *Songs of Innocence* William Blake (1789)

語彙

weep! - 煙突掃除の呼び声, sight - 夢, plain - 平地の広がり, leaping - ジャンプしながら, sport - 遊び, harm - 悪いこと

分析

- a) 煙突掃除の少年の父親は、なぜ彼を売ったのか。
- b) 少年は、なぜ煤の中で眠るのか。
- c) トムの髪の毛は、なぜ剃られたのか。
- d) 煙突掃除の少年は、どのようにしてトムを励まそうとするのか。
- e) 柩とは何か。
- f) 錠を開けて少年たちを解放する天使の重要性は何か。
- g) 子供たちは、なぜ暗い中で起きたのか。
- h) この話の教訓は何か。

（引用省略）The Chimney Sweeper

From *Songs of Experience* (1794)

語彙

woe - みじめさ, heath - 草で覆われた丘

分析

- a) 両親が教会へ行ってしまったことは、なぜ皮肉なのか。
- b) 少年は、どのような意味で死の衣を着せられたのか。
- c) ブレイクは、支配層が結託して若者を搾取していることをどのように伝えているか。
- d) 煙突掃除の少年の一つ目の詩は『無垢の歌』の一つであり、二つ目の詩は『経験の歌』の一つである。どうしてそのように言えるのか。説明しなさい。
- e) 二つ目の詩の一節を選んで暗記しなさい。

第9章

変わりゆく風景

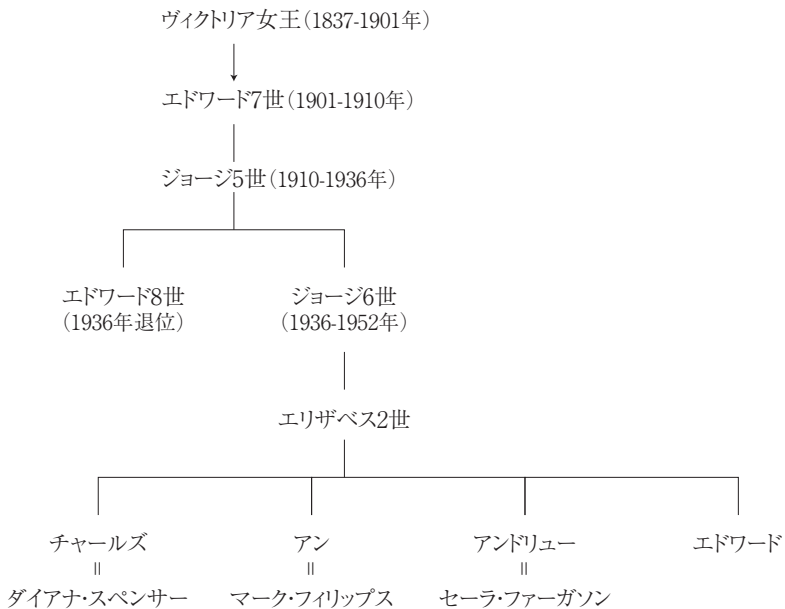
イントロダクション

イギリス文学には、地方を描くという強い伝統がある。それは今日まで続いている。19世紀以降、イギリスの小説家は、イギリスの町や村の共同体で起こる日常の出来事に注目するようになった。作家の中には、物語のために架空の場所をつくり出した者もいた。その例として有名なのは、ハーディのウェセックス、トロロープのバーチェスターである。それらの場所は明らかに実在する地方の町に基づいている。ジョージ・エリオットの『ミドルマーチ』では、小説家は町全体を細部にわたって描いている。地方政治は話の筋に不可欠である。それは行動と性格づけの両方に影響を及ぼす。地方を描く小説は、何よりもまず、イギリス社会の歴史を鮮明に描写する。小説には、社会のすべての階層が含まれていて、その土地の諸問題、移り変わる流行、「隣人のうわさ話」について、多くの議論がなされたことが描かれている。

以下の六つの文章は、19世紀および20世紀の小説からの引用である。

ノートを取ること

- 以下の文章を見なさい。どれがあてはまるか。
 - 二つの教会があるロマンチックな断崖の上を描いている。
 - わくわくした若い少女の初めての海外旅行を扱っている。
 - 炭鉱業の起源は数百年前にさかのぼるといふ炭鉱の村を描いている。
 - 南西部の海岸線の変わらない風景を扱っている。
 - ローマ人、アングロ-サクソン人、ヴァイキング、ノルマン人が次々と侵入してきたことを通して、村が経験した変化を、村に出没する霊の描写によって記録している。
 - イースト・ミッドランズのかかなり汚い陶磁器製造業の町を描いている。



珠玉の表現

1 セント・オグズ, ウォリックシャー

(引用省略) Eliot *The Mill on the Floss*

語彙

shadow - 霊, fitfully - 落ち着きがなく, widely-sundered generations - 長年離れている人々

2 ベストウッド, ノッティンガムシャー

(引用省略) Lawrence *Sons and Lovers*

語彙

colliers - 炭鉱夫, gin pit - 浅い炭鉱, stockinger - レースのストッキングを作る人

3 エグドン・ヒース, 「ウェセックス」(ドーセットシャー)

(引用省略) Hardy *The Return of the Native*

語彙

distilled - ろ過された, kneaded - パン作りのパン生地のように働いた

4 スタッフォード, スタッフォードシャー

(引用省略) Bennet *Anna of the Five Towns*

5 リヴァプール, ランカシャー

(引用省略) Bennet *Anna of the Five Towns*

語彙

blissful bewilderment - 幸福な無理解, landing stage - 乗客が船に乗り込む場所, keels - 船底, unruffled - 邪魔されない, slate-coloured - 灰色, furlong - 220ヤード, awed - 恐怖を抱かせた, enticing - 魅力的な, enchanted - 魔法をかけられた, glinting - 輝いている, fraught with - いっぱい

6 ウィットビー, ヨークシャー

(引用省略) Stoker *Dracula*

語彙

sacked - 略奪された, Marmion - スコットが書いたロマンチックなバラッド

ノートを取ること

1. 詳しく学ぶために原文を一つ選びなさい。知らない単語を辞書で調べなさい。他の学生か学生のグループが答えるように内容理解のための質問を作りなさい。
2. 次の問いに答えなさい。
 - a) 上記の文章を書いた作家が使用している自然を特徴づけるものをリストアップしなさい。
 - b) どのような人工的な（人間が作った）特徴が描かれているか。
 - c) 上記の文章を書いた小説家が言及しているイングランドの侵入者をリストアップしなさい。

ディスカッションのポイント

- a) どの作家が変化を恐れているように見えるか。どの作家が変化を歓迎しているように見えるか。

- b) 上記の描写の中で、感傷的なものがあるか。
- c) 上記で描かれている場所の中で、訪問するのにもっとも興味深い場所はどこか。

4 考察

Literary Landscapes は、「イギリス文学入門」(*An Introduction to English Literature*) という副題がつけられているように、文学の入門書である。しかし、文学史の体裁を取っているので、読み進めるうちに、イギリス文学の変遷も理解することができるような仕組みになっている。しかしこの本は、「イギリス文学の風景」という観点から編集されているので、これをそのままの形でイギリス文学史のテキストとして使用することは難しい。情報量が足りないからである。イギリス文学史でおさえるべき作家や作品が網羅されていないのである。何が足りないのか。

ここに一冊のイギリス文学史のテキストがある。本稿の冒頭で示した川崎寿彦『イギリス文学史』(成美堂, 1988年)(英題: *A Brief History of British Literature*) である。筆者はイギリス文学史の講義において、この本をテキストとして使用してきた。定評があるからである¹⁵。しかし実際に教室で使用してみると、学生たちの国語力の低下のせいだろう、漢字が読めない、意味がわからない、という問題が頻発する。また、英題には、“*Brief*”(簡潔な)という形容詞がつけられているにもかかわらず、情報が簡潔であるとは言いがたい。学部学生向けのテキストは、辞書を引かずに理解できる日本語で書かれていて、情報は必要最低限に絞られているべきである。本研究では、テキストの情報量は、*Literary Landscapes* 以上、『イギリス文学史』以下であることを探求する。

Literary Landscapes に足りない情報は何か。それを明らかにするために、

¹⁵ 初版は1988年で、2013年には第34刷が発行されている。

『イギリス文学史』を参照する。それと同時に、筆者がこれまでの講義において、情報過多として省略した内容を勘案する。つまり、『イギリス文学史』に記載されている情報から、① *Literary Landscapes* に記載されている情報を省き、②さらに実際の講義で省略した情報を省く。引き算を2回して、それでもなお残る情報、それが *Literary Landscapes* に足りない情報だということになる。

『イギリス文学史』は1988年に出版されている。一方、*Literary Landscapes* は1991年である。2冊の出版は、3年のずれはあるが、ほぼ同時期であると考えてよいだろう。本研究において、ものさし（基準）として採用する『イギリス文学史』は、研究基盤である *Literary Landscapes* と時間的なずれにおいて、大差がないことを確認しておきたい。

『イギリス文学史』は全部で14章、全204頁である。全14章の章題を記す。第1章：古英語・中英語の文学—15世紀まで、第2章：ルネサンスの散文と死—15世紀末—16世紀末、第3章：演劇が起こる—1550-1600、第4章：シェイクスピア—1590-1613、第5章：清教徒革命まで—17世紀前半、第6章：王政回復期—17世紀後半、第7章：18世紀の散文、詩、劇、第8章：小説の誕生、そして成長—18世紀初期から19世紀初期まで、第9章：ロマン主義時代—1798-1836、第10章：ヴィクトリア朝期の詩と散文—1837-1901、第11章：ヴィクトリア朝の小説—1837-1901、第12章：第2次世界大戦までの小説—1902-1939、第13章：第2次世界大戦までの詩と劇—1902-1939、第14章：戦後の文学—1939年以降。本研究では、第1章から第6章までの分析を道行氏が担当し、第7章から第14章までを筆者が担当する。

既述した2回の引き算をしたあとに残る項目は、以下のとおりである。

第7章 18世紀の散文、詩、劇

- ・ Jonathan Swift, *Gulliver's Travels*
- ・ 風刺小説
- ・ 新古典主義
- ・ Thomas Gray, "An Elegy Written in a Country Churchyard"
- ・ Oliver Goldsmith, *The Vicar of Wakefield*, *She Stoops to Conquer*
- ・ Richard B. Sheridan, *The School for Scandal*

第8章 小説の誕生、そして成長

- ・ Daniel Defoe, *Robinson Crusoe*
- ・ Samuel Richardson, *Pamela*
- ・ 書簡体小説
- ・ Henry Fielding, *Tom Jones*
- ・ Laurence Sterne, *Tristram Shandy*
- ・ ピカレスク小説
- ・ ゴシック小説

第9章 ロマン主義時代

- ・ ロマン主義
- ・ Gorge Gordon Byron, *Childe Harold's Pilgrimage*
- ・ Percy Bysshe Shelley, "Ode to the West Wind"
- ・ John Keats, "Ode on a Grecian Urn", "To Autumn"
- ・ Walter Scott, *The Lady of the Lake*, *Waverley*¹⁶

¹⁶ スコットランドを代表するロマン派の文人は Scott だけではない。『イギリス文学史』にも *Literary Landscapes* にも記載されていないが、国民的詩人 Robert Burns を忘れてはなるまい。

第10章 ヴィクトリア朝期の詩と散文

- ・ Thomas Carlyle, *Sartor Resartus*
- ・ Alfred Tennyson, *In Memoriam A. H. H.*
- ・ Robert Browning, *The Ring and the Book*
- ・ 劇的独白
- ・ オックスフォード運動
- ・ Matthew Arnold, “The Scholar Gipsy”¹⁷, *Culture and Anarchy*
- ・ 唯美主義
- ・ 芸術至上主義
- ・ ラファエロ前派
- ・ Dante Gabriel Rossetti, *The House of Life*
- ・ Oscar Wilde, *The Picture of Dorian Gray*, *The Importance of Being Earnest*

第11章 ヴィクトリア朝期の小説

- ・ William Thackeray, *Vanity Fair*
- ・ 義務の福音
- ・ 内在意思

第12章 第2次大戦までの小説

- ・ Henry James, *The Portrait of a Lady*
- ・ Joseph Conrad, *Heart of Darkness*
- ・ H. G. Wells, *The Time Machine*
- ・ John Galsworthy, *Forsyte Chronicles*
- ・ 自然主義
- ・ Virginia Woolf, *Mrs. Dalloway*, *To the Lighthouse*, *The Waves*

¹⁷ 『イギリス文学史』にも *Literary Landscapes* にも記載されていないが、初学者のためには、“The Scholar Gipsy”よりも“Dover Beach”のほうが適当であろう。

- ・ ブルームズベリー・グループ
- ・ 意識の流れ
- ・ James Joyce, *Dubliners, A Portrait of the Artist as a Young Man, Ulysses*
- ・ E. M. Forster, *A Passage to India*
- ・ William Somerset Maugham, *Of Human Bondage*
- ・ Aldous Huxley, *Point Counter Point*

第13章 第2次大戦までの詩と劇

- ・ Gerard Manley Hopkins, *The Wreck of the Deutschland*
- ・ Ezra Pound, *Cantos*
- ・ イマジズム
- ・ W. B. Yeats, *The Wild Swans at Coole, The Tower*
- ・ T. S. Eliot, *The Waste Land, Four Quartets*
- ・ George Bernard Shaw, *Man and Superman, Pygmalion*
- ・ オーデン・グループ

第14章 戦後の文学

- ・ 40年代詩人 (Dylan Thomas)
- ・ 50年代詩人 (Philip Larkin, John Betjeman)
- ・ Evelyn Waugh, *Brideshead Revisted*
- ・ Graham Greene, *The Power and the Glory*
- ・ George Orwell, *Animal Farm*
- ・ William Golding, *Lord of the Flies*
- ・ 怒れる若者たち
- ・ John Osborne, *Look Back in Anger*
- ・ 不条理劇
- ・ Samuel Beckett, *Waiting for Godot*

以上のことから、次のように結論づけることができる。*Literary Landscapes*の第5章から第9章では、18世紀から20世紀までのイギリス文学が扱われているが、詩や劇ではなく、小説に焦点が当てられている。特に18世紀と19世紀の小説、中でもジェーン・オースティン、ブロンテ姉妹、チャールズ・ディケンズに焦点が当てられている。したがって、テキストを作成する際には、18世紀の小説の勃興期および20世紀の小説について加筆しなければならない。

詩については、ロマン派のウィリアム・ワーズワースおよびサミュエル・テイラー・コールリッジに焦点が当てられている。したがって、二人を除いたロマン派から現代までを加筆しなければならない。

劇については、18世紀以降、取り上げられていない。劇の分野では、16世紀にイギリス文学の華、シェイクスピアが出てしまっているので、これはある意味で仕方がない。劇の変遷については、18世紀以降を加筆しなければならない。

散文については、18世紀のサミュエル・ジョンソンが取り上げられている。したがって、ジョンソン以降の散文について加筆しなければならない。

また、劇的独白や意識の流れなど、文学の技法やロマン主義などのキーワードについても加筆しなければならない。

以上のことを、わかりやすい日本語で、できるだけ短く簡潔に説明することが肝要である。過去の講義をふりかえってみると、知識を整理させ、定着させるためには、古くはエヴァンズが採用し¹⁸、『イギリス文学史』も採用しているように、詩、劇、小説、散文とジャンル別に解説を加えるほうが効果的であった。これをふまえて、加筆の際には、ジャンル別に解説することを試みたい。

¹⁸ アイヴァ・エヴァンズ（朱牟田夏雄訳）『小英文学史』（北星堂書店、1963年）参照。